

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3970101055
法人名	有限会社 エルビーメデイカル
事業所名	グループホーム おひさま
訪問調査日	平成 20 年 3 月 17 日
評価確定日	平成 20 年 6 月 23 日
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3970101055		
法人名	有限会社 エルビーメディカル		
事業所名	グループホーム おひさま		
所在地 (電話番号)	高知市長浜4874番地1 (電話)088-848-0220		
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会		
所在地	高知市朝倉戊375-1高知県立ふくし交流プラザ内		
訪問調査日	平成20年3月17日	評価確定日	平成20年6月23日

【情報提供票より】(平成20年2月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5(内兼務1)人, 非常勤 3 人, 常勤換算 7.7人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>	新築 / <u>改築</u>
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~35,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有(円)		<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(3月17日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.0 歳	最低 81.0 歳	最高 96.0 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	クリニックひろと 三木歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の周辺には住宅、商店、学校、病院などが点在し、地域の中で、地域に根ざした生活を継続しており、住民との信頼関係も構築されている。利用者の多くが近くに住んでいたことに加え、これまでの事業所の努力により、安心して暮らせる体制ができ上がっている。事業者が隣の公民館を利用して主催している「地域と共に学ぶ会」にも事業所の努力が窺われ、その成果が今後大いに期待される。職員の「共に暮らす」姿勢が、利用者のペースを乱さず支え、利用者個人々人を尊重し、その人らしく暮らすことができるサービスの提供に繋がっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で課題とされた2点について改善計画をたて、「注意の必要な物品の保管・管理」についてはすぐ改善し、「金銭管理の支援」については現在3人の利用者が自己管理しており、その他の利用者についても、買い物の際には自身で支払いを行う方法で支援し、取り組み中である。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員で話し合い、管理者が取りまとめ、再度職員の意見を聞いて完成させている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ホームから行事や事業の報告を行い、家族、地域代表、行政関係者から、それらに対する質問や要望などが出され、双方向的な会議となっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会で家族同士の話し合いができるよう配慮しているが、意見は出ていない。個別の要望は直接職員に伝える事が多く、そのような場合は話し合いを行い、介護計画に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日常的に地域の高齢者や小学生が事業所に立ち寄り、交流が自然な形で出来ている。地域の集会所を借りて家族会を開催したり、利用者に地域の身近な人が多いため、商店街なども顔馴染の関係ができている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所独自の理念がある。 <input checked="" type="checkbox"/> これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容である。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 理念について職員間で話し合いの機会をもち、意識づけがされている。 タイムカードの傍など職員の目に止まるところに掲示し、また、グループホーム会や申し送り時には常に話し合っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 日々のサービスの提供場面(言葉かけ、態度、記録等)において、理念が反映されている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input checked="" type="checkbox"/> 地域住民の一員として、町会、自治会等に参加している。 <input checked="" type="checkbox"/> リサイクル活動や行事など地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力をしている。 回覧板などで情報収集し、地域の防災訓練では衛生班と救護班に属し活動するなど、積極的に地域と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> サービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。 全職員で話し合い、管理者が取りまとめた後で、再度グループホーム会で意見を聞いている。 <input checked="" type="checkbox"/> 評価で見出された課題について改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。 前回の課題については改善計画を立て、実施に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<input checked="" type="checkbox"/> 会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。 事業所からの報告の後、参加メンバー(家族、地域、行政等)の質問、要望などを受けて、双方向的な会となっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 評価で明らかになった課題について会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村職員の研修場所として事業所を活用してもらったり、また市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れて伝えるなど交流を図っている。 「地域と共に学ぶ会」の内容について相談したり、「いきいき体操」の際に立ち寄ってもらうなど、交流の機会をもてるよう取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話し合っている。 家族来訪時には基本的に管理者が対応し、不在の時はその日のリーダー又は他の職員が対応するなど、必ず話し合いを行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の事業所での暮らしぶりやエピソードなど、手紙や写真等で伝えている。 毎月のグループホーム便りは送付しているが。 <input checked="" type="checkbox"/> 心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に必ず報告されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 金銭について用途の確認や金銭出納帳等を明示し、その都度あるいは定期的に報告している。 毎月の請求時に、出納帳と領収書のコピーを添付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族会や家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っている。 5月の「えんどう祭り」や秋の「芋会」などの行事の後で家族会を開催するなど、家族が集まりやすい日程づくりに配慮し、また、家族会の途中で職員が席を外すなど、お互いに意見を出しやすい雰囲気づくりに配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 苦情への対応で終わりではなく、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。 開設以来、異動は最小限に留めており、継続的に支える体制となっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるように配慮している。 引継期間は2週間から1カ月半程度まで幅があるが、スムーズに移行できる期間を取り、利用者への影響に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<input checked="" type="checkbox"/> 日常的に学ぶことを推進し、パート職員にもチームの一員として、研修・会議等参加の機会がある。 パートを含め全職員に研修情報を提供し、参加の機会を与え、研修計画も作成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を作っている。 報告書を提出し、グループホーム会で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 県内、全国組織の同業者ネットワークに加入し、サービスや職員の質向上につなげている。 <input checked="" type="checkbox"/> 管理者・職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、職員のサービスや質向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	<input checked="" type="checkbox"/> 入居希望者の入居に際し、その者の心身の状況、生活歴、病歴等の把握に努めている。 本人、家族、ケアマネ、病院などから情報を得ている。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族に事業所の見学や体験をしてもらっている。 これまで体験はないが、家族と本人には必ず見学をもらっている。 <input type="checkbox"/> 入居希望者には、管理者と職員が面接を行っている。 勤務の都合などで管理者のみで面接を行うことがある。	○	職員と一緒に面接することで、多角的、多面的な情報収集ができ、入居後の介護がスムーズに行われることが多いので、管理者と職員と一緒に面接することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<input type="checkbox"/> 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	<input checked="" type="checkbox"/> 日々の生活場面の中で、利用者を支援されるのみの立場にはおいていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 支援する側、される側という意識は持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面作りがある。 特に畑仕事において、畝の造り方や育て方など、相談したり教わりながら作業を進めることが多く、お互いに協働しながら、自然で和やかな関係を築いている。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面がある。 四季折々の行事、調理の仕方、畑仕事など、経験から得た知恵や技を教わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向の把握に努めている。 自宅の庭の果実を取りに行きたい人、毎月本を購読したい人、晩酌や喫煙を楽しみたい人などの希望や意向に沿うようにしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。 身振りや表情で概ね理解できている。家族へ利用者の思いを伝達することで、家族からの新たな情報も得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 本人やご家族等からの気づき、意見、要望等を反映した介護計画が作成されている。 <input checked="" type="checkbox"/> アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。 新たな情報は随時追加し、毎月のカンファレンスで報告している。モニタリングも記録している。		
16	37	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 介護計画は、設定された期間ごとに見直しされている。 長期は6カ月、短期は3カ月で見直している。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人、家族の要望や状態に変化が生じた場合には、その都度見直しされている。 <input type="checkbox"/> ワンパターンの期間設定ではなく、本人の状態や計画内容に応じた個別の期間設定をしている。 個別の期間設定はしていない。	○	個別の期間設定をすることで、経過観察や介護の内容にも変化が生じ、計画が利用者により身近なものになってくるので、検討を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 医療処置を受けながら生活が継続できるように努めている。 <input type="checkbox"/> 重度化した場合や終末期も事業所でケアを提供している。 現在、重度化、終末期を迎えた場合は、協力医療機関に相談し入院となるので、事業所でのケアは提供していない。 <input checked="" type="checkbox"/> 特別な外出、通院や送迎、外泊などの支援を行っている。 希望による外出、通院の送迎、外泊や事業所での宿泊など幅広く柔軟な支援をしている。	○	本人や家族の要望があれば、終末期のケアも提供できるよう検討し、今後事業所の多機能性を活用したサービスの拡がりを図ることを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	<input type="checkbox"/> かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> いままでのかかりつけ医や本人・家族等が希望する医療機関・医師に受診できる支援ができています。 従来のかかりつけ医はもちろん、眼科、歯科などの専門医も、希望する医師の受診ができるよう支援している。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診や通院は、本人やご家族の希望に応じて対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診結果に関する情報の共有ができています。 家族には口頭や電話で連絡し、職員間は受診時に連絡ノートを作成して情報の共有を図っている。		
19	47	<input type="checkbox"/> 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<input type="checkbox"/> 終末期の対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。 <input type="checkbox"/> 本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期が迎えられるように取り組んでいる。	○	終末期対応を希望する家族もいるので、利用者が安心してサービスを利用できるように方針を定め、医療機関等との連携にも配慮することを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<input checked="" type="checkbox"/> 人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 他の家族や外来者に対して、職員が利用者のプライバシーに関する話を話さないことを徹底している。 常に職員間で話し合い、注意し合っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 全ての職員が、個人情報保護法の理解に努め、徹底されている。 個人情報の保護については、採用時にその必要性について説明し、その後も引き続き徹底に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの「その日」にしたいこと(買い物や散歩等)を把握し、それに応じて柔軟に支援している。 朝の挨拶の時に買い物や外出の希望などを聞き、その時々の方角の変化に柔軟に対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業所の業務スケジュールに利用者の生活を合わせていない。 利用者の思いを大切に考えており、まず利用者の思いを「伺ってから」という姿勢を基本に支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 献立づくりから調理、片付けに至るまで、食事に関する一連の流れを職員が一方的に進めるのではなく、利用者の意志や気持ちを大切にしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員は食事の介助にとどまらず、利用者と職員が同じものを一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<input type="checkbox"/> 利用者のこれまでの生活習慣や希望にあわせて入浴できるよう、職員勤務体制等について工夫をしている。 毎日入浴を希望する人もいるが、勤務体制の関係で日曜日は入浴が行われていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりにあわせた入浴支援を行っている。 入浴を拒む利用者が1~2人いるが、言葉掛けや対応の時間をずらし、また、職員を変えるなどして支援している。時には清拭も実施している。	○	利用者が希望する時は、曜日を問わず入浴が可能となるよう、勤務体制等を工夫することを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 何がその人の役割、楽しみごとになり得るかを把握している。 利用者の生活歴や入居後の嗜好などを基に、何がその人の役割や楽しみごとになるかを見い出し、支援している。 <input checked="" type="checkbox"/> 食事作りや庭木の剪定など利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。 芋の茎やいたどりの下拵え、鉢植えの花の植え替え、野菜の世話など、利用者の経験を活かし、活躍できる場面作りをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの役割、楽しみごと等を作り出すため働きかけを行っている。 女性の利用者は生活場面での役割を作りやすいが、男性利用者には、その特性を活かして、毎日のゴミだしや水やりなどを頼み、利用者がそれぞれの役割を担えるように働きかけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 近くへの散歩だけではなく、その人の馴染みの店や場所へ出かけている。 喫茶店にコーヒーを飲みに行く人、お気に入りの美容院へ行く人、フラダンスを踊りにデイサービスに出かける人など、その人に合わせた支援をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 歩行困難なケースでも、車や車いす等を利用し、戸外へ出ることを積極的に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。 日常的な散歩や近くの商店への外出のほか、外食に出かけたり、家族の協力を得て温泉旅行や墓参りに出かけるなど、多くの支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 居室や日中玄関に鍵をかけていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者一人ひとりの外出の習慣や傾向を把握して、対応している。 その人の外出傾向を良く把握しており、前兆を見逃さず、タイミング良くドライブに誘ったり、そと後ろから付いて行くなどして対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いている。 これまでに事例はないが、近隣との顔馴染の関係は築かれており、見守る体制が出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<input type="checkbox"/> 事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的に実施している。 <input checked="" type="checkbox"/> 避難路の確保(整理整頓)や消火器等の設備点検を定期的に行うとともに、非常食料・備品を準備している。	○	地域住民の参加を得て避難訓練等を実施できる状況が整っていると考えられるので、更に安心、安全な暮らしを提供するためにも、継続して定期的実施することが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの一日の栄養摂取総量や水分量を把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの嗜好を把握し、献立に採り入れながら、栄養バランスにも配慮している。 利用者の嗜好やその日に食べたい物を考慮し、栄養バランスにも配慮している。 <input type="checkbox"/> 定期的に、栄養士や保健師等に専門的な観点からチェックしてもらっている。 過去にクリニックの栄養士にチェックしてもらったことがあるが、定期的なチェックは受けていない。	○	利用者に喜ばれ、かつ、安心して食事を提供するためにも、専門的な立場の方から、定期的にチェックを受けることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって使いやすい配置や馴染みの物を採り入れた共用空間になっている。 廊下の片隅の椅子や座敷の掘り炬燵は、利用者にとって使い心地のよい空間であり、調度品なども使い慣れた親しみを感じるものである。 <input checked="" type="checkbox"/> 天井や壁面に掛けられた折り紙等の飾り付けが、家庭的な雰囲気壊していない。 一階の壁面の飾り付けや展示物はやや大仰さが感じられるが、二階の空間は落ち着いた着きがあり、家庭的な雰囲気である。 <input checked="" type="checkbox"/> 季節感のある装飾等に工夫するなど、季節感や五感の刺激にも配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 使い慣れた馴染みの物を傍に置くなど、本人や家族と相談しながら個別に工夫している。 テレビ、テーブル、椅子、筆筒などの調度品をはじめ、敷物、掛け時計、置き時計、家族やペットの写真など、それぞれの利用者の好みに合わせたものを配置し、馴染みの空間になっている。 <input type="checkbox"/> 家族の協力が得られない等の場合でも、本人の意向を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組まれている。 家族の協力が得られない居室は、やや寂しさを感じる空間になっている。	○	家族の協力が得られない場合でも、根気良く、可能な方法で協力を依頼し、また、職員のアイデアや工夫で、より一層温かみや居心地の良い空間づくりに取り組まれることを期待したい。